別添様式
令和元年度「ちばっ子の学び変革」推進事業研究成果報告書

ちばっ子の学び変革！

<table>
<tr><th colspan="2">研究指定校の取組（令和元年度）</th></tr>
<tr><td>校名</td><td>習志野市立第三中学校</td></tr>
<tr><td>研究概要</td><td>研究主題　主体的に学ぶ力を伸ばす指導の探究
～「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善～
研究・研修の推進体制、方法
（１）研究推進委員会を中心とし、教科部会、分掌部会等と連携しながら研究を推進する。
（２）「三中学びスタイル」を推進し、学習スタイルの定着、授業規律の徹底を図る。
（３）授業研究を行い、言語活動を大切にした授業、学習形態の工夫、生徒が主体的に活動する学習活動等を通して「主体的・対話的で深い学び」に迫る。</td></tr>
<tr><td>実践内容</td><td>１　研究概要
（１）共通取組事項、教科等での取組、検証についての確認
①　授業の（基本的な）流れ
・学習課題の提示→ひとり学び→学びあい→発表→まとめ（振り返り）
②　単元計画、学びのプランの作成
・学習の見通しを持たせる。
・自己評価（振り返り）を記入して、学習内容を再確認する。
③　発問（問いづくり）や振り返りの仕方の検討
・思考の広がる発問のしかたを検討する。
・考えを深め、新たな考えに気付くような振り返り、まとめの仕方を検討する。
④　授業の流れの見える板書
・「学習課題」から「まとめ」までの思考の流れが見えるような板書に努める。
・「本時の流れ」を示す。
⑤　生徒の「話す」、「聴く」力（コミュニケーションスキル）の向上に取り組む。
・返事をする。・話に反応しながら聴くよう指導する。
・起立してみんなに向かって話す、適切な音量で話すよう指導する。
・黒板、ホワイトボード、投影機等を活用して説明できるよう支援する。
⑥　振り返りの活動を取り入れる、振り返りの視点を示す。
・思考の変化や深まりがメタ認知できるように支援する。
（２）第１回授業研究（７月１０日）
<table>
<tr><th>教科等</th><th>学　級</th><th>単元名</th></tr>
<tr><td rowspan="3">国　語</td><td>１－１</td><td>花の形に秘められたふしぎ</td></tr>
<tr><td>２－４</td><td>夢を跳ぶ</td></tr>
<tr><td>３－３</td><td>無言館の青春</td></tr>
<tr><td>社　会</td><td>１－２</td><td>木簡と計帳は語る</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

実践内容

	２－４	開国と幕府政治の終わり
	３－４	高度経済成長の光とかげ
数　学	１－４	文字の式
	２－３	連立方程式
理　科	２－３	生命を維持するはたらき
	３－２	水溶液とイオン
音　楽	２－２	鑑賞　フーガ　ト短調
美　術	１－３	春夏秋冬　切り絵の制作
技術家庭	２－１	食生活と自立　日常食の調理
	３－１	情報　プログラムによる計測・制御
英　語	２－２	Lesson４
	３－３	Lesson３
道　徳	１－３	いつのまに・・
特別活動	３－４	卒業後の進路選択をしよう
総　合	２－１	職業体験学習に向けて
特別支援	６組	性別を意識したかかわり方を考えよう
	ＳＳ	修学旅行のﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝと数学の授業

（３）第２回授業研究（９月３０日）

①　授業展開

教科等	学年・組	単元名・題材名
国語	１－２	古典の扉を開く
	２－２	随筆の味わい
	３－２	芭蕉の思いを読みとろう
社会	２－１	自然災害と防災への取り組み
	２－４	日本の農業
	３－４	平等権　共生社会を目指して
数学	１－４	方程式の解き方
	２－３	一次関数
	３－３	$y=ax^2$
理科	１－２	物質のすがた
	２－４	行動のしくみ
	３－１	遺伝子の規則性と遺伝子
音楽	１－３	合唱
美術	１－１	切り絵とモダンテクニック
保健体育	１－３・４	器械運動　跳び箱
	３－４・５	球技　ソフトボール

実践内容

保健体育	３－１・２	球技　ソフトボール
技術家庭	２－１	衣食住の生活　食生活
英語	２－３	Lesson４
	３－３	Lesson４
特別支援	６組	自分のものは自分で洗濯する練習をしよう

②　全体指導

講師　横浜国立大学名誉教授　髙木展郎　先生

・カリキュラム・マネジメントの進め方、カリキュラム・マネジメントを用いた学校評価

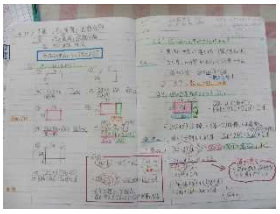
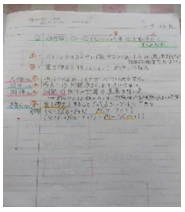
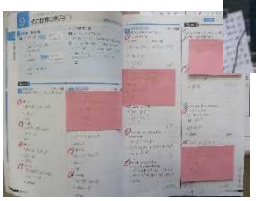
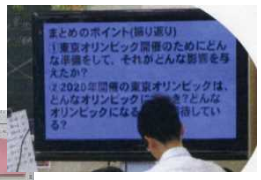
・主体的・対話的で深い学びを実現する授業、学級づくり

・観点別学習状況の評価の進め方

・授業づくりの今日的課題、インクルーシブ教育システムにおける指導

（４）その他の授業研究

教科等	学年・組	単元名・題材名
国語	１－２	故事成語
	３－１	和歌の調べ
理科	２－３	電流による発熱
	３－３	化学変化と電池
音楽	１－４	合唱

（５）全体研修会（１月２７日）

疑似体験を通した生徒理解　～ユニバーサルデザインと合理的配慮～

講師　千葉大学教育学部准教授　宮寺千恵　先生

①集中力が低かったり、すぐに注意が他に向いてしまったりする生徒への対応

②読むこと、書くこと、聞くことに対して困り感のある生徒の特徴と対応の仕方

③ユニバーサルデザインを意識した教室環境や指導方法の工夫

・疑似的な体験を通して、とてもわかりやすく指導をしていただいた。困り感を持っている生徒に対して、どんなところに配慮し、どのように支援していくことが必要なのかが具体的にわかる研修であった。来年度に向けて、教室環境等から取り入れていきたい。

別添様式
令和元年度「ちばっ子の学び変革」推進事業研究成果報告書

実践内容	（６）先進校視察、シンポジウムへの参加、三中への他校の訪問等 ・秀明大学シンポジウムでの実践発表　　１１月１０日 ・学力向上フォーラム（秋田　大曲中学校、大曲高等学校）１１月２３日 ・公開研究会（資質・能力を育成する学習評価シンポジウム）２月２４日 ・沖縄県　本部町立本部中学校　　資料送付 ・佐賀県　武雄市立武雄中学校　　１０月１０日来校 ・愛知県　刈谷市立朝日中学校　　１０月２４日来校 ・静岡県　牧之原市立相良中学校　　２月１０日来校 ・長崎県　佐世保市立光海中学校　　２月２１日来校 ２　成果と課題 （１）成果 ①　授業研究　～今年度は、教科等での授業研究を中心に研究を進めた。～ ・「三中学びスタイル」の取組を始めて５年目、県研究指定を受けて３年目（最終年）になる。毎年実施している生徒アンケートの結果を見ると、「学習課題への取り組み」（肯定率９０％）、「話し合う活動では、話し合う内容を理解し、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかり伝えている」（肯定率８４％）、「自分の考えを発表するとき、自分の考えがうまく伝わるよう資料や文章、話の組み立てなどを工夫している」（肯定率６２％）「話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」（肯定率８５％）「授業内では振り返りの活動をよく行っている」（肯定率８６％）など高い肯定率である。三中学びスタイルが定着してきていると同時に、授業改善が進んできていることを示している。 ・教員のアンケートの結果を見ても「指導のねらいを明確にした上で、言語活動を位置づけている」（肯定率８６％）、「生徒の発言や活動の時間を確保している」（肯定率９５％）「習得、活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善、工夫をしている」（肯定率８６％）、「振り返る活動を計画的に取り入れている」（肯定率６８％）など、教員の意識の向上が感じられる。 ・各教科等の授業研究では、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を目指して各教科が様々な取組を行っている。多くの教科でグループ活動を取り入れ、討論会、ペア学習、実験・実習などの体験を通して学習する取組がたくさん見られた。 （２）課題 ・授業の形態を考えたとき、授業のスタイルをどこまで統一したものにして、教科独自の工夫をどのくらい取り入れていくか、学校全体としての統一感を持ちながら各教科等が工夫していく難しさを感じる。 ・この３年間は、大幅に教員の異動があった。３年間の研究指定を受けていたが、研究に３年間携わった教員は、全体の４割弱である。新しく着任した先生方に研究の流れを伝え、現在、自校の取り組んでいることを理解して、授業展開をしてもらうための時間が十分にはとれなかった。 ・生徒の興味、関心を高めるような「問い」、日常生活から見出されるような「学習課題」を工夫するなど、学習課題の「問い」の質の向上を図る必要がある。今日、学力観が変化してきているが、授業での取組が学力向上につながるような「問い」や「学習活動」を工夫し展開する必要性を感じる。

別添様式
令和元年度「ちばっ子の学び変革」推進事業研究成果報告書